

第 64 回 SSN 勉強会

観察会に役立つ っておきのグッズ紹介Ⅱ

小川洋子（八千代市）

日 時：2014年8月9日（土）9時～12時

講 師：9～10時 「子どもたちをひきつけて楽しい観察会にする方法」河添寿子

10～12時 「観察会の中でのテクニック」盛一昭代

場 所：9～10時 千葉市美浜区稲毛記念館

10～12時 千葉市美浜区稲毛海浜公園と浜

参加者：小川、河添、後藤、佐口、佐藤、八木(千)、盛一、山田(益) 計8名
非会員4名

台風11号が九州、四国に接近中という天候の中で、今回の勉強会は行われました。会場は千葉市稲毛海浜公園内の稲毛記念館。まず河添さんからSSNのこれまでの歩みが紹介されました。その後、担当の方々が用意してくださった小学校の教科書（1・2年生用の生活科、各学年の国語）を手に取り、現在の教科書の内容を確認しました。カラーのイラストをふんだんに取り入れ、子どもたちの興味を喚起し、学習に関心を向けるような工夫が随所にみられました。内容には自然に関することも盛り込まれています。エライオソームの話も記載されていることに驚き、感心し、子どもたちに接する時に、こちらも子どもたちが学んだことをおさえた上で、学習支援をすることが必要だと感じました。

10時から、盛一さんが講師のふれあい観察会に同行、盛一さんが観察会をどのように展開していくかを見せていただきました。記念館を出てすぐの生け垣にクモの巣をいくつも発見。ジョロウグモ、クサグモ、コガタコガネグモなどの巣でした。クモによって巣の張り方が違うことなどを観察、公園内の林へ。林の入り口ではマテバシイの熟す前のドングリを観察。日頃観察会でおなじみのドングリですが、熟す前の青いものを観察したことはあつたかしら。ヤブツバキのリンゴのように大きく赤く育った実など、いつもの観察でおなじみの物だけれど、じっくり見るととてもきれいでした。次に潮が引いた浜で干潟の観察。子どもたちは足を濡らしながらもアサリ、シオフキ、イボニシなどの貝類、ヤドカリ、タマシキゴカイの卵、クラゲ等々、次々捕まえてとても楽しそうでした。楽しい浜での時間はあっという間に過ぎ、記念館に戻る時が来ました。皆とても心残りの様子で、記念館に戻り、観察会は終了しました。

今回はその後オプションでクラフト作りがあり、全員残り、後藤さんの指導で木の実などを利用してトンボやアリなどを作って満足の様子でした。

盛一さんは、何げない見慣れたものに注目して関心をひきつけ、干潟では手作りの網で海水を採取しファールで覗いてみるなど、いろいろな工夫され、とても参考になりました。今回学んだことを今後の観察会に活かしていきたいと思いました。

